

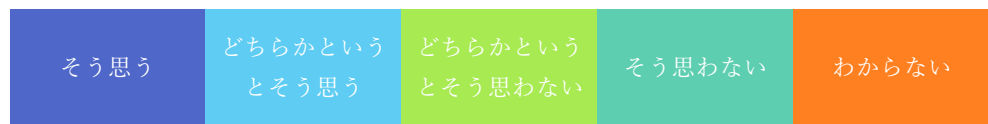
令和6年度 学校教育活動点検アンケート結果と分析の報告

12月に実施しました学校教育活動点検アンケートの結果とその分析を報告いたします。

今年度の教育活動について、「学校生活について・中学生としての規律」に関する質問と、「学校経営目標」の4つの柱「心通い合う人間関係と豊かな人間性の育成」「確かな学力が身につく学習活動の推進」「心身ともに健康で逞しく生きる生徒の育成」「地域から信頼される魅力ある学校づくり」の視点からアンケートを作成し、生徒・保護者・教職員に質問しました。その結果を分析し今後の教育活動に生かせるよう検討しました。



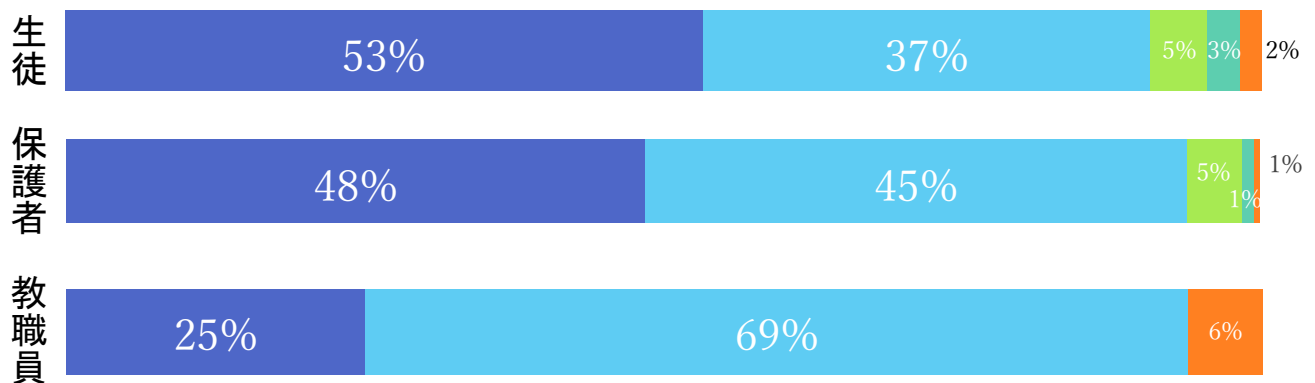
・グラフの見方



「学校生活・中学生としての規律」に関して

①学校生活の満足度

生徒	保護者	教職員
自分にとって、学校での生活は楽しく充実している	お子さんは、学校で楽しく充実した生活を送っている	生徒の、学校での生活は楽しく充実している

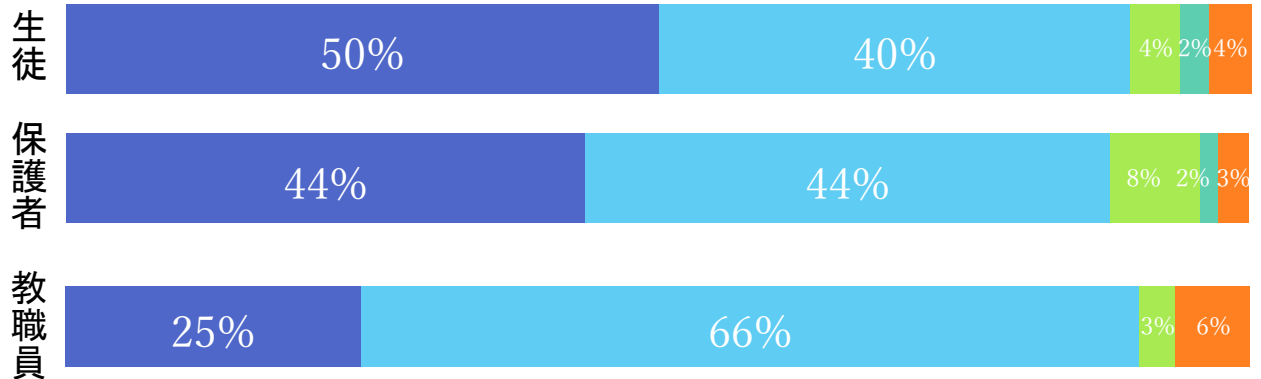


「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答している生徒が90%で、ほとんどの生徒が学校での生活を楽しく充実して過ごすことができている。また、保護者の「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答している割合も昨年より4ポイントアップして93%です。教職員の回答では、「そう思う」と回答した割合が25%であり、昨年に比べて7ポイント増加しましたが、生徒や保護者の結果と大きな乖離があります。現状よりさらに充実した学校生活を送ってほしいと考えてる教職員が多いことがうかがえます。

一方、「そう思わない／どちらかといえばそう思わない」と回答した生徒が8%で昨年度と同様の結果となりました。「ひとりも取り残さない」教育の実現に向け、生徒との対話をさらに増やし、生徒全員が充実した学校生活ができるよういていきたいと思います。

②学校での居場所

生徒	保護者	教職員
自分は、クラスの中で安心して気持ちよく生活することができる	お子さんは、クラスの中で安心して気持ちよく生活している	生徒は、クラスの中で安心して気持ちよく生活できている

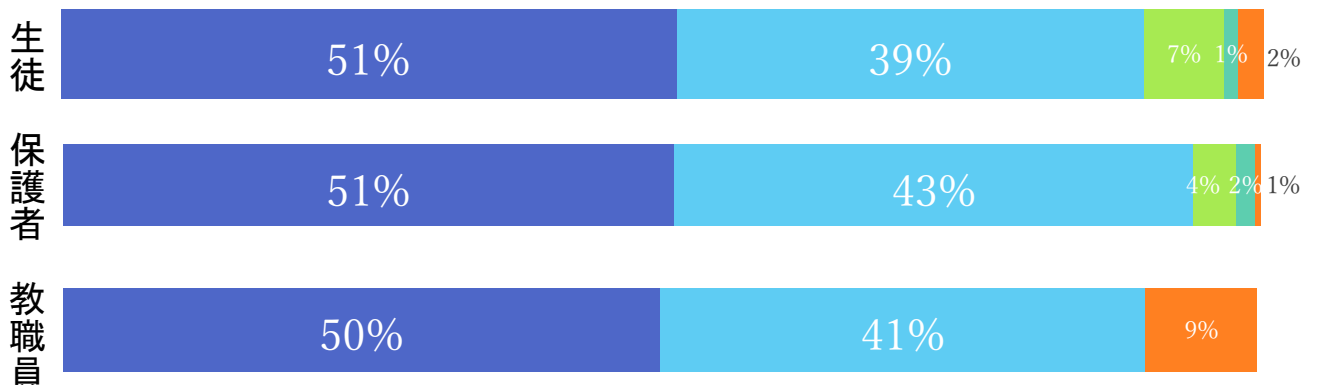


「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答している生徒が90%で、昨年度より5ポイント上がりました。一方、「そう思わない／どちらかといえばそう思わない」と回答した生徒は昨年度より7ポイント減少し、6%となりました。教職員は3%のみの回答で昨年より8ポイント減少しました。人権尊重教育の充実を図って教育活動を行ってきたことの成果が表れたと感じています。

本校の目指す学校像の1つに「生徒が安心して過ごせる学校」を掲げています。安心して生活ができる大きな要因は人間関係づくりにあります。来年度以降も共生*共育プログラムの授業に力を入れ取り組み、さらに教育相談の充実も継続的に図っていきます。また、学級会や人権尊重教育にもさらに注力したいと考えています。今年度の取組を生かして、より一層生徒一人一人の気持ちを理解し、全員が安心して学校生活が送れるように人間関係づくりを行っていきたいと思います。

③ルール・マナー

生徒	保護者	教職員
自分は、正しい服装を心がける・時間を守るなど、学校生活に必要なルールやマナーを守って生活している	お子さんは、正しい服装を心がける・時間を守るなど、学校生活に必要なルールやマナーを守って生活している	自分は生徒に、正しい服装を心がける・時間を守るなど、学校生活に必要なルールやマナーを守るよう指導している

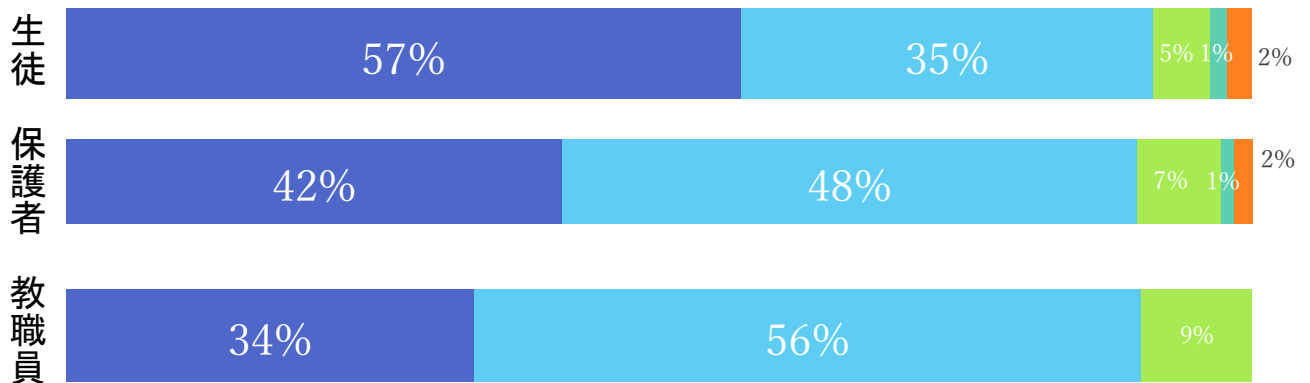


「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答している生徒が 90%で、ルールやマナーを意識して学校生活を送っていることが分かります。生徒の自由回答からも「きまりが守れている」「輪を乱す生徒がいない」などの記述が目立ち、生徒たちが自分たちの規範意識の高さを自負していることが分かります。

本年度は人権尊重教育の観点から学校生活の行動目標を生徒自らが作っています。あらゆる教育活動の中で、より活動が充実するための目標・約束を築き、それを大切にしていける心を育成していきたいと考えます。

④あいさつ・ことばを大切に

生徒	保護者	教職員
自分は、おはよう・こんにちはなどの挨拶をするよう心がけている また、時・場所・相手に応じた丁寧で正しい言葉遣いを心がけている	お子さんは、おはよう・こんにちはなどの挨拶をするよう心がけている また、時・場所・相手に応じた丁寧で正しい言葉遣いを心がけている	生徒は、おはよう・こんにちはなどの挨拶をしている また、時・場所・相手に応じた丁寧で正しい言葉遣いをしている



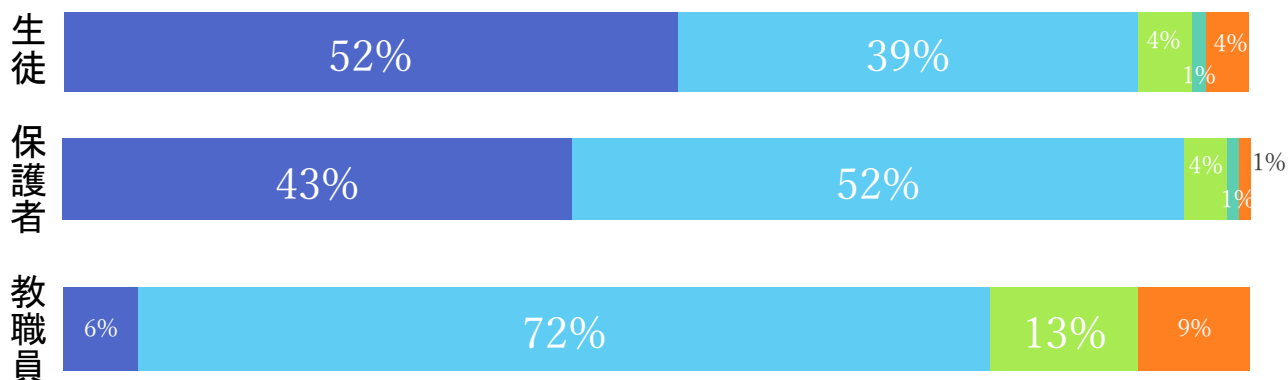
「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答している生徒が 92%あり、生徒の自由回答からも学校の良いところとして「あいさつができる」「あいさつがさかん」などの記述が多くありました。ここ数年は「そう思う」の回答は生徒も教職員も年々減っていることが気になっていましたが、生徒は 3 ポイント、教職員は 13 ポイント増加しました。昨年度の年間反省からあいさつの大切さを考える教育活動の取組を強化した結果が表れました。保護者の自由記載の中でも「来校時の生徒の気持ちの良い挨拶に好感がある」などお褒めの言葉が多くありました。

今年も生活委員会があいさつ運動ののぼりの下で、毎朝懸命にあいさつ運動を行ってくれています。生徒会が中心となって様々な活動を行い、本校の誇りである「あいさつが盛んな学校」をさらに進めていきたいと考えます。

「心の通い合う人間関係と豊かな人間性の育成」に関して

⑤仲間を認める

生徒	保護者	教職員
自分は、人の悪口を言ったりいじめをしたりせず、友達の良いところを認めることができる	お子さんは、人の悪口を言ったりいじめをしたりせず、友達の良いところを認めることができる	生徒は、人の悪口を言ったりいじめをしたりせず、友達の良いところを認めることができる

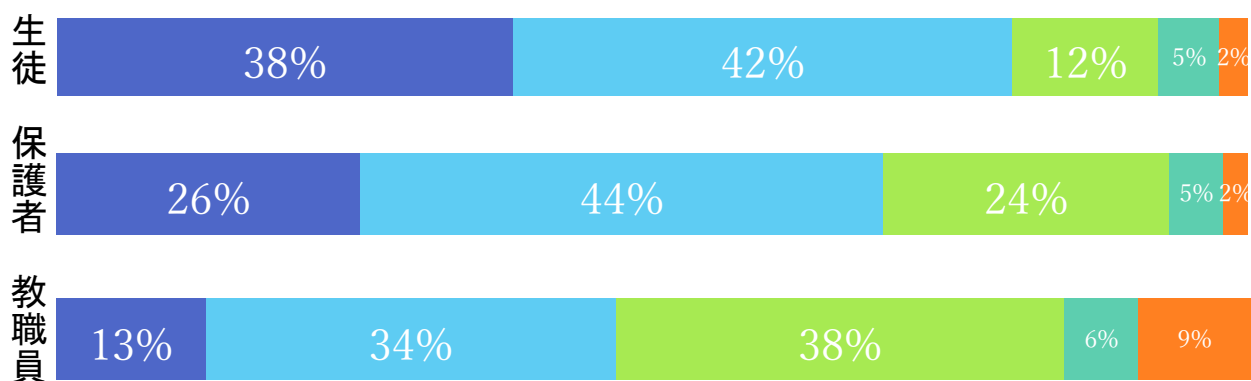


「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答している生徒が91%おり、昨年度より3ポイント増加しました。また95%の保護者が同様に回答しており、生徒同士の関係性の良さを認めていただいています。その一方、教職員は「そう思う」の回答がわずか6%しかおらず、また「どちらかというともう一方」の回答も13%あり、仲間を認め合うことが大きな課題であるととらえていることが分かりました。

来年度も人権尊重教育をさらに進め、自分らしく生活することの大切さや、人の良いところを認め合う態度の育成に継続的に力を注いでいきたいと思えます。

⑥自己の考えと表現

生徒	保護者	教職員
自分は、自分の意見や考えを持ち、それをはっきりと述べるることができる	お子さんは、自分の意見や考えを持ち、それをはっきりと述べるることができる	生徒は、自分の意見や考えを持ち、それをはっきりと述べるることができる



「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答している生徒が80%で昨年度より5ポイント増加しました。保護者は70%で他の質問項目に比べて割合が大きく下回っています。

昨年度から継続して生徒が自信をもって発言することができる力を育成することに注力して教育活動を行ってきました。しかしながら、教職員の回答からもまだまだ目標の達成には至っていません。授業や学級会の中で育成する場面を多く設けてきましたが、課題が残る結果になりました。来年度以降も、自信をもって意見を述べることができる生徒の育成に力を入れていきたいと思えます。

⑦人間関係形成

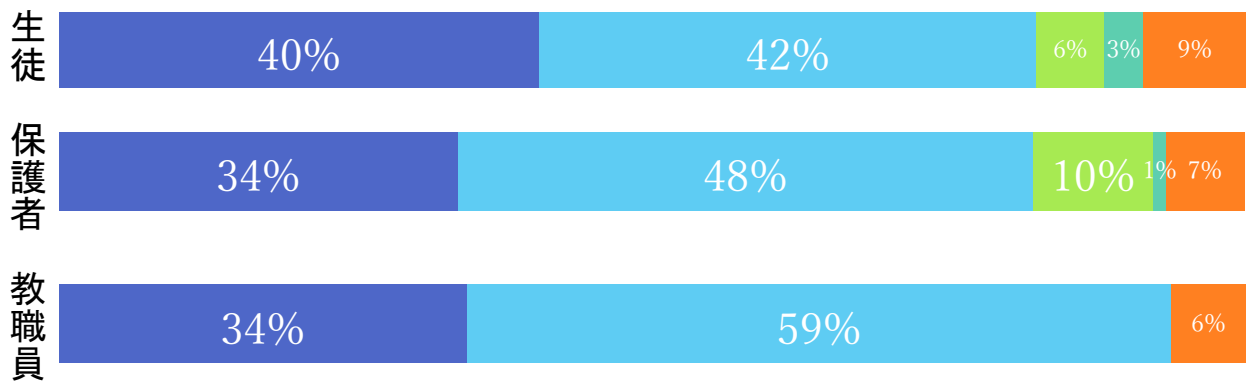
生徒	保護者	教職員
自分は、学級活動・行事など様々な場面を通じて、友達とより良い関係を作るようにしている	お子さんは、学級活動・行事など様々な場面を通じて、友達とより良い関係を作るようにしている	生徒は、学級活動・行事など様々な場面を通じて、友達とより良い関係を作るようにしている



「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答している生徒が92%いて、生徒が他と協力して学級活動や行事に取り組んでいたことが分かります。教職員は回答した全職員が「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答していることから、学級活動や学校行事で生徒同士がお互いに良い関係を作るように努力していることを評価していることがうかがえます。

⑧自己肯定感・自己有用感

生徒	保護者	教職員
自分は、友達や先生から自分の頑張りや良いところが認められている	お子さんは、友達や先生から自分の頑張りや良いところが認められている	生徒は、友達や先生から自分の頑張りや良いところが認められている

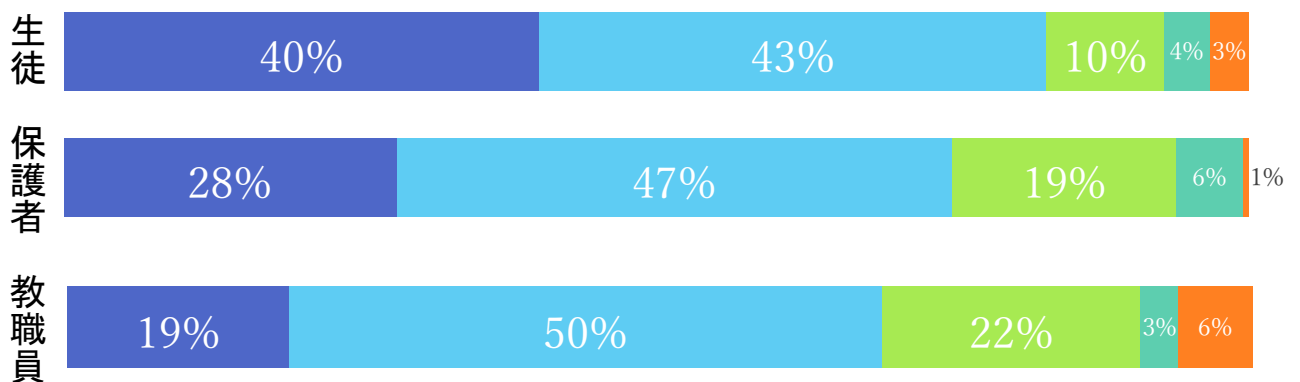


自己肯定感・自己有用感は今年度本校が育成したい資質・能力の1つです。人権尊重教育の柱として、また共生*共育プログラムの効果的な活用や、授業中に協働的な学びを多く取り入れ、他者を良いところを認め合う活動に注力しています。「そう思う/どちらかといえばそう思う」と回答している生徒が82%ながら、昨年度よりも肯定的にとらえている生徒の割合が2ポイント増えました。93%の教職員が同様の回答をしていて、手ごたえを感じているように思えます。一方、「わからない」と答えている生徒が昨年より8ポイント減りましたが、依然9%もあり、他者が自分の良いところを認めてくれているか自信がないと感じているようです。

今年度の活動を継続して行い、さらに自己肯定感・自己有用感の育成を図っていきたいと思います。

⑨自己実現

生徒	保護者	教職員
自分は、何事に対しても目標を持ち、それに向かって努力している	お子さんは、何事に対しても目標を持ち、それに向かって努力している	生徒は、何事に対しても目標を持ち、それに向かって努力している



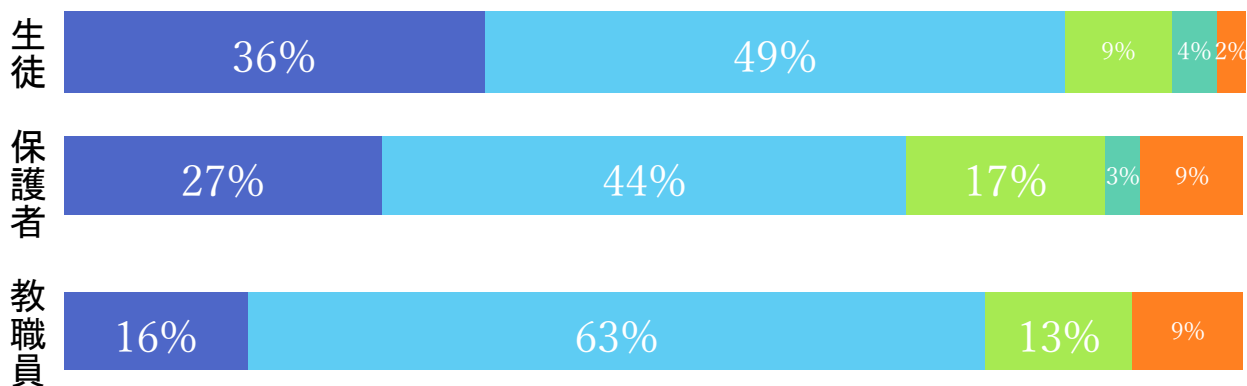
「夢や目標に向かって努力する力」は本校が目指す生徒像の1つです。川崎市の中学生は、自分の将来に夢や目標を持っている生徒の割合が低い傾向があります。学習、学校行事、学級活動、部活動それぞれの活動について集団と生徒個人に目標を持たせ、達成に向けて努力することを指導するように努めてきました。

「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答している生徒は約 83%で、昨年度より3ポイント増加しました。比較的高い割合となっています。保護者は約 75%、教職員は 69%でそれぞれ 3～5 ポイント増加しましたが、満足できる数字とは言えません。「どちらかという塗装と思わない／そう思わない」の回答した保護者・教職員が 25%いることから、生徒にさらに目標に向かって努力する姿を望んでいることが感じられます。次年度も引き続き、自己実現が図れる資質能力の向上を目指して行きたいと思えます。

「確かな学力が身につく学習活動の推進」に関して

⑩授業（主体的に学習に取り組む態度）

生徒	保護者	教職員
自分は、意欲的・主体的に授業に取り組んでいる	お子さんは、意欲的・主体的に授業に取り組んでいる	生徒は、意欲的・主体的に授業に取り組んでいる

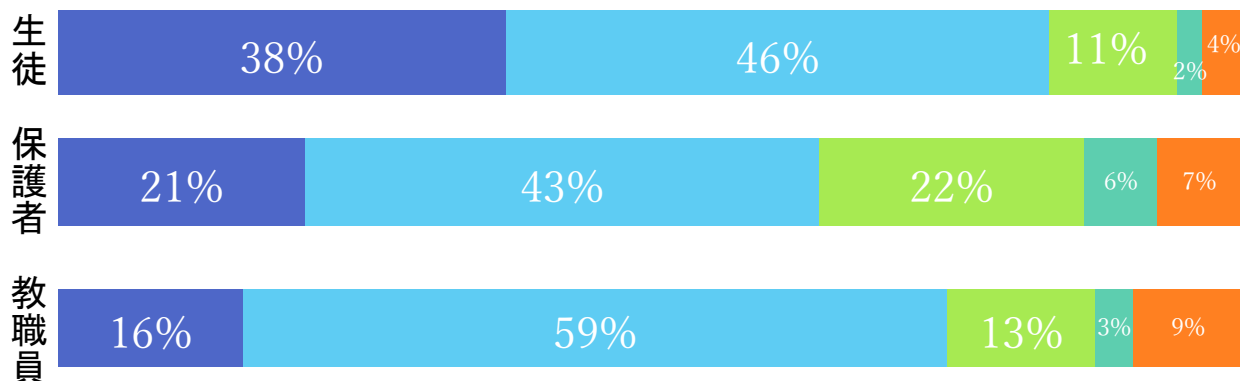


「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答している生徒が 85%で昨年より 6 ポイント増加しています。また、「そう思わない／どちらかといえばそう思わない」と回答した生徒が 13%もいて、昨年より 4 ポイント減少したとはいえ、約 7 人に 1 人の生徒が授業に意欲が持てていないことが分かります。一方、昨年度 25%の教職員が生徒が意欲的、主体的に授業に参加していないと感じていることから、今年授業改善を図ったことから、12 ポイント減少し 13%の数値まで下がることとなりました。UD・UDL を土台とした授業づくりの実践が効果を表しつつあると実感します。

来年度も UD・UDL を土台とし、個別最適な学びの実現を目指し、生徒が意欲的・主体的に学習に取り組む姿勢を育成したいと考えます。

⑪授業（確かな学び）

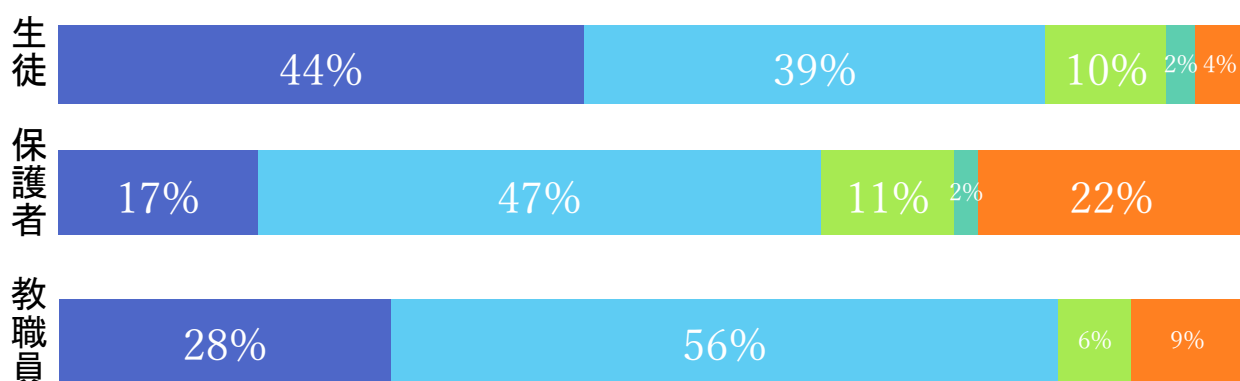
生徒	保護者	教職員
自分は、授業の内容を理解し、知識や技能を身につけている	お子さんは、授業の内容を理解し、知識や技能を身につけている	生徒は、授業の内容を理解し、知識や技能を身につけている



「そう思う/どちらかといえばそう思う」と回答している生徒が 84%、教職員は 75%の回答でした。昨年度より若干ポイントが増加しています。生徒が「わかった」と実感できる授業を目指していますが、13%の生徒、28%の保護者、16%の教職員が「どちらかというともそう思わない/そう思わない」と回答していることから、課題が多い現状です。保護者の自由記載から「子供が理解できないまま授業が進んでしまう」「塾に行っていないと授業についていけない」と懸念する声も上がっており、生徒にしっかりと授業内容を理解させていきたいと思えます。定期テスト前には学習相談会を開き、生徒の学習支援を図ってきました。授業の中で生徒自身に目標を持たせ、それぞれが主体的に授業に参加できるように授業改善をしていきます。

⑫授業（先生について）

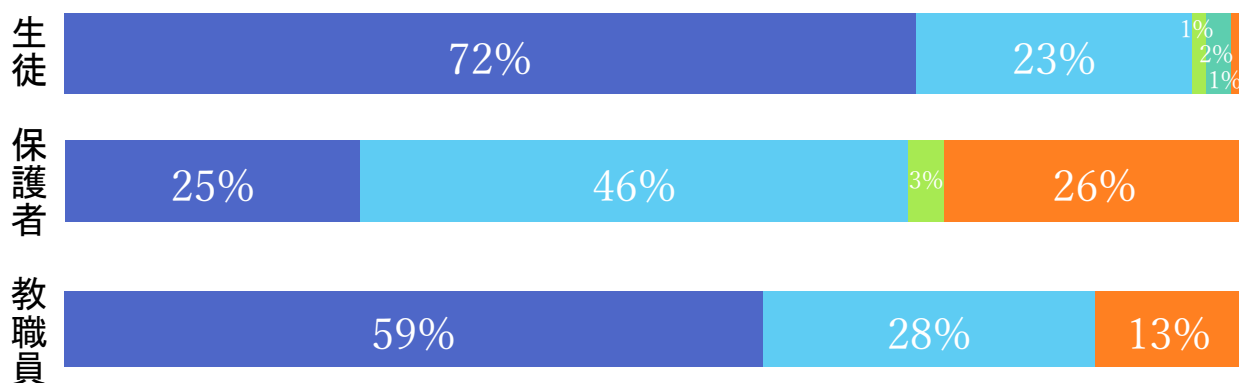
生徒	保護者	教職員
先生は、楽しく丁寧でわかりやすい授業を行っている	先生は、楽しく丁寧でわかりやすい授業を行っている	自分は、楽しく丁寧でわかりやすい授業を行っている



「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答している生徒が 83%で、概ね楽しく授業に参加できていることが分かります。一方、生徒の 12 パーセント、保護者の 13%が「どちらかというと思わない／そう思わない」と回答していることから、授業に困り感を持つ生徒へ教科指導にまだまだ課題があると感じています。より興味関心が高まる授業を実践していきたいと思います。また保護者の 22%が「わからない」と回答していることから、授業内容の周知の仕方や授業参観の開催方法などを引き続き検討していきたいと考えています。

⑬授業（学び合い・発表について）

生徒	保護者	教職員
授業中に生徒同士で話し合う機会や、意見などを発表する場がある	先生は、授業中に生徒同士で話し合う機会や、意見などを発表する場を作っている	自分は、授業中に生徒同士で話し合う機会や、意見などを発表する場を作っている



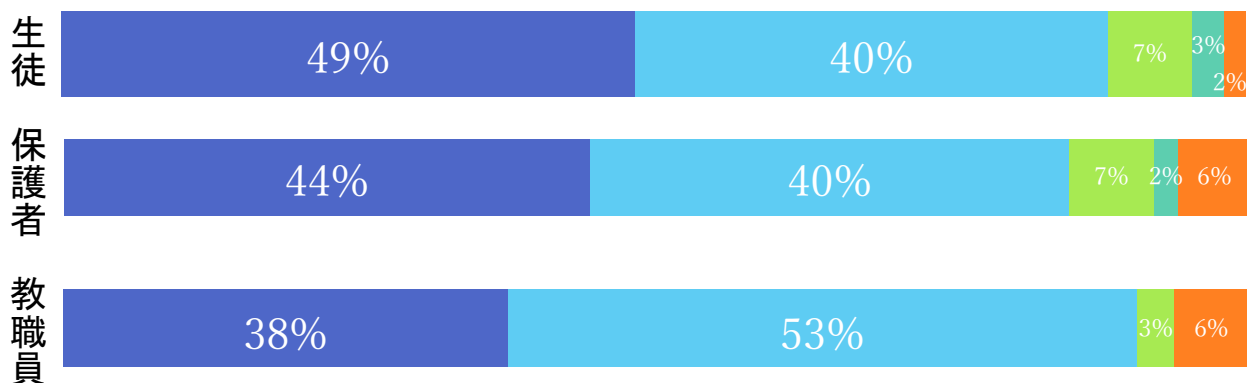
自分の考えを持ち、学び合いに積極的に参加する生徒の育成は重点目標にの1つです。「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答している生徒が 95%、教職員が 87%おり、一定の成果が表れていると感じています。

授業では少人数のグループ活動が盛んに行われました。学び合い活動が苦手と感じている生徒もいますので、今年度の取組を生かして、さらに生徒が自信をもって発言できる場を作っていきたいと思っています。

「心身ともに健康で逞しく生きる生徒の育成」に関して

⑭学級活動・委員会活動

生徒	保護者	教職員
自分は、クラスの活動（学級活動・係活動・清掃活動など）・委員会活動に意欲的・主体的に取り組んでいる	お子さんは、クラスの活動（学級活動・係活動・清掃活動など）・委員会活動に意欲的・主体的に取り組んでいる	生徒は、クラスの活動（学級活動・係活動・清掃活動など）・委員会活動に意欲的・主体的に取り組んでいる

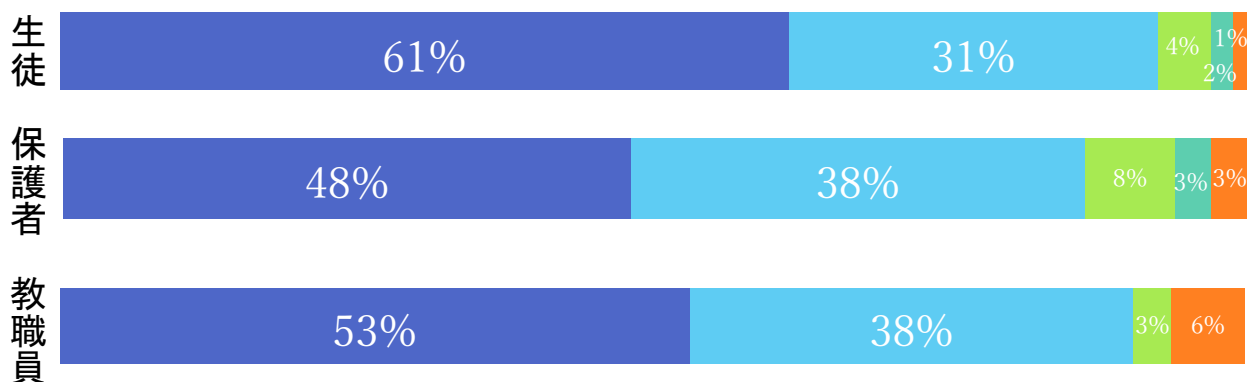


89%の生徒が「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答しています。

どのクラスも生徒の自己肯定感、自己有用感を育成するために、係分担等に工夫を凝らして所属感が感じられるように学級経営にあたりました。自分の仕事に責任を持ち、しっかりと行うことができたことが分かります。しかし10%の生徒が「そう思わない／どちらかといえばそう思わない」と回答しています。3%の教職員しか感じていないことですので、要因を考え、改善を図りたいと考えます。

⑮学校行事

生徒	保護者	教職員
自分は、学校行事（体育祭・文化祭・校外行事など）に意欲的・主体的に取り組んでいる	お子さんは、学校行事（体育祭・文化祭・校外行事など）に意欲的・主体的に取り組んでいる	生徒は、学校行事（体育祭・文化祭・校外行事など）に意欲的・主体的に取り組んでいる

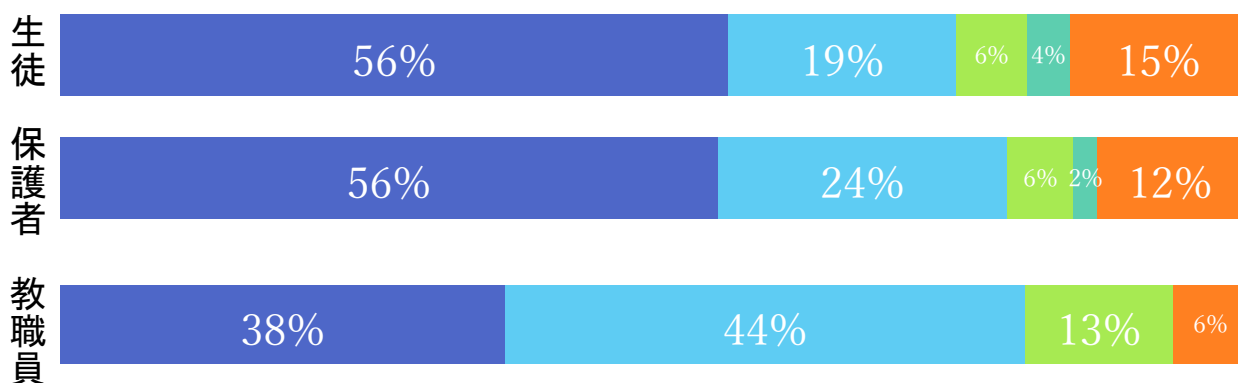


生徒や保護者の「学校の良いところ」の自由記載には「生徒が学校行事に一生懸命に取り組むこと」という回答が多く見られます。今年度は「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した生徒は昨年度より4ポイント増え92%、保護者86%、教職員91%と、とても高い割合でした。

「生徒が主役」というスローガンのもと、生徒が主体的に参加する学校行事をはじめとした特別活動の推進を目指してまいりましたので、たいへんうれしい回答結果になりました。

⑩部活動

生徒	保護者	教職員
自分は、部活動に意欲的・主体的に取り組んでいる ※未加入者は「わからない」に○	お子さんは、部活動に意欲的・主体的に取り組んでいる ※未加入者は「わからない」に○	生徒は、部活動に意欲的・主体的に取り組んでいる

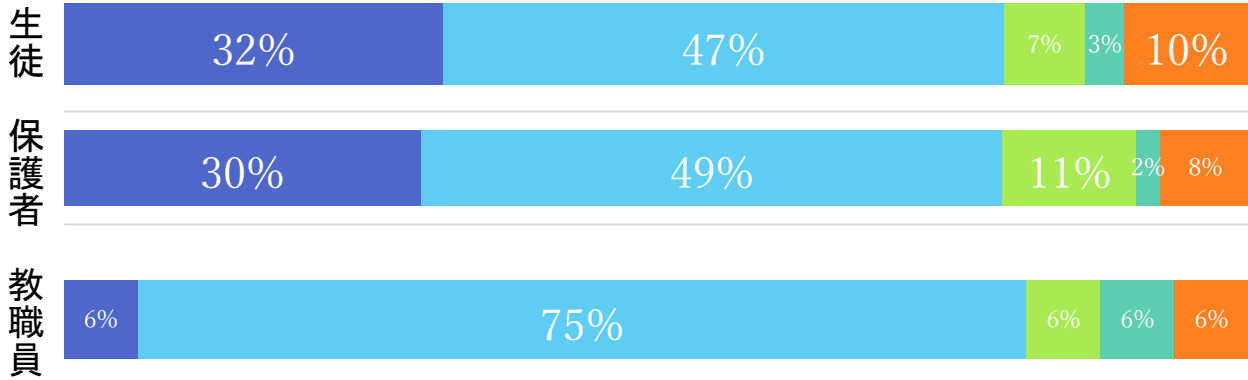


部活動に未加入の生徒を除くと、88%の生徒が「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答しています。一方12%の生徒が「そう思わない／どちらかといえばそう思わない」と回答しています。

今年度も途中退部の例もいくつかあり、約10人に1人の生徒がそのような気持ちでいることに留意し、生徒個々に目を向けた部活動運営をしていかなければならないと感じています。そのためにも、顧問が生徒一人一人との対話を増やし、生徒の想いを大切にしていきたいと考えます。

⑰健康・安全

生徒	保護者	教職員
自分は、ウェルビーイングを高めるよう学校生活を送っている	お子さんは、ウェルビーイング（心身ともに健康で充実した状態）を高めるよう生活を送っている	生徒は、ウェルビーイングを高めるよう学校生活を送っている



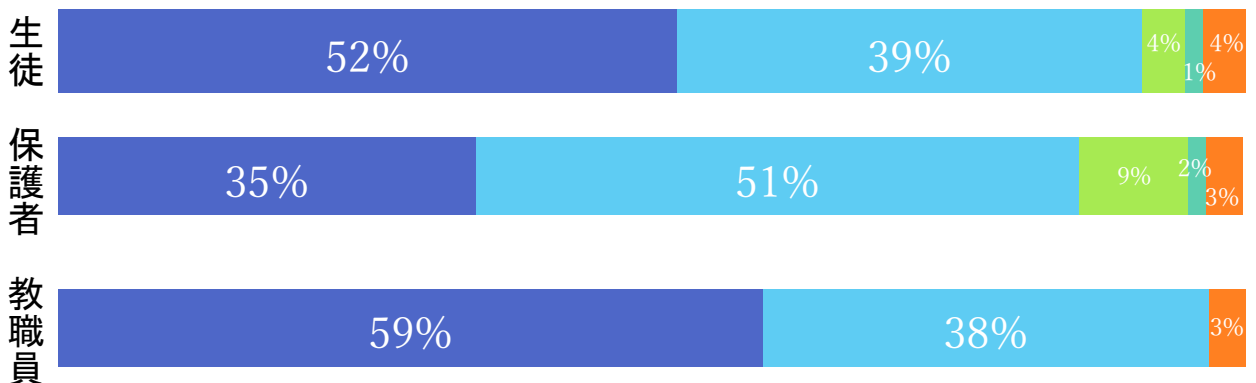
本年度より2年間、川崎市の人権尊重教育の研究推進校となり、その研究テーマが『日吉中ウェルビーイング』です。『ウェルビーイング』とは「身体的・精神的・社会的に良い状態にあることで、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などを将来にわたる持続的な幸福を含む概念」といわれ、「だれもが幸せな気持ちで学校生活をおくる」ことができる学校を目指します。現在生徒たちが実現するための目標をつくっており、「自身を持ち自主的に行動する」「互いを思いやり、個性を認め合う」「夢を持ってたくさん挑戦する」の3つが生徒の行動目標となりました。その活動の振り返りとして新設で作った質問項目です。

「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した生徒は79%でした。今後生徒たちが中心に議論を進め、「誰もが幸せな学校生活がおくれる」学校づくりをしていきたいです。

「地域から信頼される、魅力ある学校づくり」に関して

⑱情報発信

生徒	保護者	教職員
便り・通信・掲示物等で、学校の様子や連絡などの情報を知ることができる	学校は、便り・通信・掲示物等で、学校の様子や連絡などの情報を発信している	学校は、便り・通信・掲示物等で、学校の様子や連絡などの情報を発信している

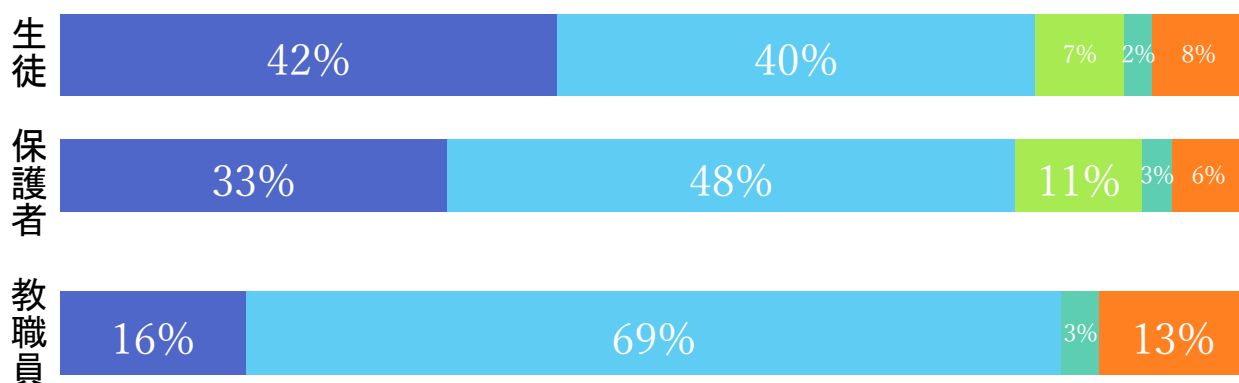


86%の保護者が「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答していますが、自由記載では「学校の様子が分からない」という声が今年度も多く見られました。

各クラス毎週金曜日に学級通信（次週の時間割）を出しています。また学校行事はできる限りライブ配信していて保護者の方からは、感謝の言葉もいただけています。今後も様々な形で情報配信に努めていきたいと思います。

⑱相談体制

生徒	保護者	教職員
先生は話やすく、何かあった時に相談できる	自分（保護者）にとって、先生は話やすく、何かあった時に相談できる	生徒や保護者にとって、自分は話やすく、何かあった時に相談できる相手である

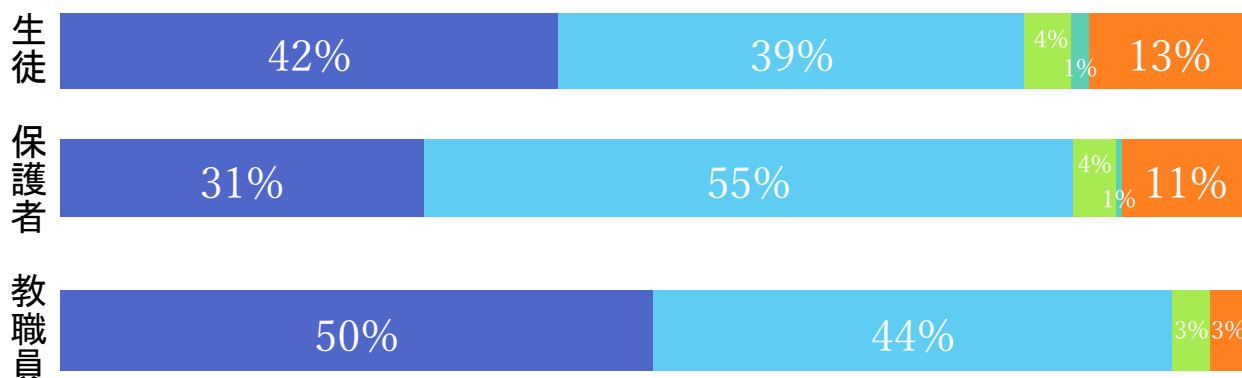


「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した生徒が82%で7ポイント増加しました。教育相談の充実が本校の重点目標の1つですので、とてもうれしい結果となりました。一方「そう思わない／どちらかといえばそう思わない」と回答した生徒は9%、さらに「わからない」と答えた生徒も8%いて、今後の課題です。

教育相談のアンケートを年3回実施し、さらに担任と生徒の教育相談を3回、保護者を交えた3者面談も2回実施しました。今後も生徒との強い信頼関係を築き、生徒や保護者が相談しやすい環境を構築していきたいと思います。

⑳保護者・地域連携

生徒	保護者	教職員
学校は、保護者や地域と連携している	学校は、保護者や地域と連携して教育活動を行っている	学校は、保護者や地域と連携して教育活動を行っている



「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した生徒は 81%で8ポイント、保護者は 86%で6ポイントそれぞれ増加しました。

おやじの会の皆さんが行ってくださる「紅白餅つき」や「梅干しづくり」、地域教育会議が主催でおこなっている「Hi4City フェスティバル」などに、自ら自主的にボランティア参加する生徒が増えました。多くのPTAの皆さんもボランティア参加してくださいました。地域から信頼され愛される学校づくりが重点目標の1つです。今後も地域の方やPTAの方との連携を深め、開かれた学校づくりの実現を目指したいと考えます。